

学校番号	4	学 校 名	沼津聴覚特別支援学校	校 長 名	高橋 潤子
------	---	-------	------------	-------	-------

1 目指す学校像

(1) 教育目標

自己の障害を理解し、主体的な確かな学びをとおして、情操豊かで自ら社会に参画しようとする子供を育成する

(2) 校訓

愛と自由と誠心と

(3) 目指す学校像(学校あいことば)

「笑顔・通じ合い・つなげる学び」

笑 顔【私が好き、あなたが好き、みんなが好き】

- ・自分の良い所を伸ばす
- ・相手の良い所を認める
- ・安心できる場や集団がある
- ・健康な心と体

通 じ 合 い【かかわることが好き】

- ・同じ障害のある仲間と深め合う
- ・障害のあるなしにかかわらず通じ合う
- ・多様な人とのかかわりを楽しむ

つなげる学び【つながりのマネジメント】

- ・他の学びとつなげたり関連付けたりしながら、学びを広げる
- ・横のつながり、縦のつながり、社会とのつながり

(4) 目指す子供像

- ・心も体も健康な子
- ・関わりが持てる子
- ・学びを楽しめる子

【育てたい力】

① 障害観	自分の障害に向き合い、できること困難なことなど自己の障害の特性を理解する力
② 障害対応力	自己の障害の特性を踏まえ、伸ばしたい力、社会自立に向けて必要な支援を求める力
③ 自己肯定観	ありのままの自分に向き合い、自分の存在を肯定的に受け止める力
④ 共生力	相手のことを思いやり、互いに影響を与え合い成長する力
⑤ 知識・技能	学習をとおして学び、身に付けていく力、定着に向けて計画的継続的に取り組む力
⑥ 発信力	自分の思いや考えを整理し、様々な方法で相手(校内、校外)に伝えることができる力
⑦ 学びに向かう力	問題点に気付き解決方法を考えることができる力、手がかりを生そうとする力。 (学びを楽しむ。自分で行うこと、協働で行うことの両輪で)
⑧ 生活力	日常生活や社会生活における課題を理解し、必要なことを身につけようとする力

(5) 目指す教師像

- ・互いを**尊重**し、助け合い支えあう、信頼される教師
- ・子供の気持ちを理解し、成長を促すことができる教師
- ・主体的に研修に取り組み、特別支援教育及び聴覚障害教育の**専門性の維持・継承**を続ける教師
- ・成果を仲間に還元できる教師(研修成果の共有)

2 目標具現化の柱

(1) 安全安心で、信頼され選ばれる学校(みんな学校が好き)

(2) 教職員の専門性の**維持・継承**

(3) 聴覚障害特性に応じた学習で**楽しむ学び**

3 具体的な取り組み目標

ア 選ばれる学校づくり

(ウェルビーイングの視点、子供が安心できる学校環境、ともに助け合い働き甲斐のある職場、積極的な学校アピール)

イ 聴覚障害教育における地域のセンター的役割の積極的な発揮(学校、行政、福祉、医療との連携)
教職員の専門性**維持・継承**に向けた組織的な研修(協働で進める OJT、専門性を高める全体研修と自己研修)

ウ 聴覚障害教育の専門性を生かした「わかる授業」による**楽しむ学び**
地域資源を活用した、地域ぐるみの教育の充実

4 R7年度の取組 ※教職員には寄宿舎指導員を含む

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
ア	安全・安心で、頼られる学校	（心と体の安全・安心・居場所づくり） ○子供・職員が安心して過ごせる環境づくり ・ウェルビーイングに関する研修 ・互いの良さに気づくことができるような、児童会、生徒会、縦割りでの活動 ・人権教育年間計画の活用 ・教職員人権啓発研修の実施	・教職員や子供が、互いにつながりを感じながら、心身ともに安心した環境の中で過ごすことができる。 （教職員・児童生徒アンケート AB100%）	企画 生徒指導 人権委 各学部 寄宿舎
		○子供が命や身体の大切さを意識できる指導の充実 ・防災、防犯教室 ・食育指導	・教職員が、子供に対し命や身体の大切さを意識できるような指導を行うことができる。 （教職員アンケート AB100%） （ヒヤリハット事案0件）	企画 生徒 保体 各学部 寄宿舎
		○共に支え合う働きがいのある職場 ・適切な会議の運営 ・情報機器を活用しての仕事の効率化（仕事の効率化につながる発信）	・教職員が、自分の仕事に対しやりがいを感じ、積極的に取り組むことができる。 （教職員アンケート AB100%） ・教職員が、働きやすい職場環境と感じ、気持ちよく仕事を行うことができる。 （教職員アンケート AB100%）	企画 各学部 寄宿舎 総務 事務
		○積極的な学校アピール(組織や活動、成果の発信) ・外部人材、学校運営協議会の活用 ・外部機関（学校、行政、医療機関）等との連携、教育活動の発信	・学校のアピールや外部との連携が進んでいると答える。 （学校運営協議会評価 AB100%） （教職員アンケート AB100%）	企画 情報 学校運営協議会
イ	聴覚障害教育のセンター的役割を積極的に発揮する	○地域のニーズにこたえるセンター的機能を積極的に発揮（通級、乳幼児、教育相談） ・学校、医療、行政、福祉との連携	・ニーズや相談への対応を行うことができる。 （教職員アンケート AB100%） （通級保護者アンケート AB100%） ・学校が各機関と連携を図ることで通級生が安心して学びに向かうことができる。 （通級保護者アンケート AB100%）	地域 支援
	教職員の専門性維持・継承に向けた組織的な研修	○専門性を維持・継承向上させるための組織的な研修や全体研修会の実施 ・学部を超えたつながりで進めるOJTや教科部会、自己研修 ・自立活動に関する学習会の実施 ・手話力の向上に向けた取り組み ・幼児児童生徒に対する言語指導の充実	・教職員が、学習会や研修を通して専門性の向上を図ることができる。 （教職員アンケート AB100%） ・教職員が、子供に対し言語の拡充を意識した指導ができる。 （教職員アンケート AB100%）	研修 自立 各学部 寄宿舎
	聴覚障害児の特性に配慮した「わかる授業」による楽しむ学び	○幼児児童生徒の障害に合わせた「学びがわかる」授業の実践 ・一人一聴覚授業の実施 ・講師招聘研修の実施 ・個の実態に応じた視覚教材（ICT 機器の活用や掲示など）の活用	・教職員が、子供にわかる授業に向け、工夫したり改善したりすることができる。 （教職員アンケート AB100%） ・子供が、「授業を通してわかるようになった。」と答える。 （児童生徒アンケート AB100%）	研修 情報 各学部
ウ	地域資源を活用した地域ぐるみの教育の充実	○楽しむ学びのための地域ぐるみでの教育力の向上 ・積極的な外部人材活用 ・学校運営協議会の活用 ・学校間、居住地校交流の充実 ・寄宿舎と地域との積極的な交流活動	・居住地校交流や学校間交流、地域施設の活用を行い、子供の学びの機会を設けることができる。 （教職員アンケート AB100%）	企画 学校運営協議会 各学部 寄宿舎

